



# 自らの誇りを 取り戻す博物館

2006年2月から約2年間、カリブ海に浮かぶ島国に滞在した。現地の人が自らが設立し自らが運営する博物館を、収集・展示・教育などの博物館事業や職員養成などで支援するためである



右奥の博物館は町の中心部の一画をしめる



先住民の石器について解説する学芸員



スティールドラムのハンズオン展示

セントクリストファー・ネイビスは、一年中すがすがしい熱気を感じる美しい海に囲まれた気持ちのいい島国である。二つの島で一つの国をなし、面積は二つの島をあわせても淡路島の半分に満たない。セントクリストファー島（セントキッツ島）のほうがネイビス島よりやや大きい。それでも車で一時間強もあれば一周できてしまう。人口は約四万。阪神甲子園球場の最大収容人数が約四万七〇〇〇人だから、それより少ない。

セントクリストファー島にいた先住民は、英仏の入植者によって一六二六年に大虐殺され、生き残った者は島から追われた。現在は、サトウキビ農園の労働者としてアフリカから連れてこられた奴隷の末裔たちが人口の大半を占める。一九八三年に英国から独立した。南・北・中央アメリカのなかで、面積が一番狭く、人口が一番少なく、そして一番新しい国家である。

## 歴史・文化・自然遺産の 保存・活用を訴える

こんな小さな島国にも博物館は存在するものである。セントキッツ博

物館は二〇〇二年開館で、職員は館長以下五名。島の歴史・文化・自然を紹介する小さな博物館である。

セントクリストファー遺産協会という、歴史・文化・自然遺産の保存・活用の大切さをより多くの人びとに伝えるために一九八九年に設立された現地NGOが、国からこの博物館の運営を委託されている。収蔵資料は少なく、住民が「土を掘っていたら出てきた」と言って持ち込んだ先住民の石器や、近現代の生活用具などが中心である。

この地は毎年一月から翌年の四月が観光シーズンで、大型クルーズ船が頻繁に出入りする。博物館は町の中心部に位置するため、クルーズ船の欧米人観光客も多数立ち寄る。博物館にとって彼らが落としていくお金は貴重な収入源となる。しかし、この博物館は観光客が楽しむためだけに存在しているわけではない。

## 歴史・文化を創造する

近年、住民の自己の文化的アイデンティティの高揚に伴い、非西洋に所在し現地の人が運営する博物館も、住民自らが自文化を表象し再認識・再構築する場所として機能す

奴隷としてアフリカから連れてこられた先祖の足跡をたどり、仮面や彫刻などの美術工芸を中心とする展覧会であった。博物館は住民や行政とともに文化や歴史を再構築する中心的存在になってきている。

小さいながらも、自らの誇りを取り戻すためにさまざまな取り組みをおこなう博物館。住民たちが「自らの手で、自らの文化や歴史を、自らの土地において表象する」ことを目的とした、新しい形の博物館として注目したい。

さおとめけんじ  
五月女賢司  
民博 機関研究員

専門は博物館学。特に、博物館における展示や教育活動のあり方や地域における博物館のあり方について関心がある。セントクリストファー・ネイビスには、国連開発計画（UNDP）の下部組織である国連ボランティア計画の一員として赴任した。



るようになってきた。このセントキッツ博物館でも、奴隷貿易や奴隷制の歴史を振り返り、あらたな歴史・文化を創造する取り組みとして、住民や現地ユネスコ国内委員会の支援のもとに奴隷貿易廃止二〇〇周年記念の特別展を開催した。



資金調達のために博物館はパーティを主催する